

オオアワダチソウ

Solidago gigantea var. leiophylla

キク科



オオアワダチソウ。他の植物を排除し、大群落を作る

名前の由来

アワダチソウ(アキノキリンソウの別名)に似て大型で、花のつき方が泡を連想することから名付けられた。大栗立草と当てる場合もある。漢字名：大泡立草

形態的特徴

高さ0.5~1.5mほどで直立する。花茎、葉は淡い緑色で、茎上方を除いて無毛で滑らか。葉は披針形で密に互生し、縁には鋭くて低い鋸歯がある。花は橙黄色で径6mm程度と小型。花枝上に多数の花が上方に片寄ってつき、花序を形成する。花序は茎の上方にまばらにつく。

類似種と見分け方：セイタカアワダチソウ。

セイタカアワダチソウは葉面や茎に短毛があってざらつき、葉縁の歯が不明瞭なほど低い。また開花期は9~10月でオオアワダチソウの開花よりやや遅い。

生育環境・分布

河原や草地、荒地、道端などでしばしば大群落が見られる。

分布：国外分布は、北アメリカ原産で、ヨーロッパには古くから帰化している。

国内分布は、北海道から九州。

北海道内分布は、全道。

十勝地方では、河原や草地、荒地、道端などで普通。

生活史

開花時期：7~9月。開花までの年数：不明。寿命：多年草。

他生物との関わり

花には虫が訪れる。また種子は草食性の小鳥類の冬の食料となる。

興味深い話

- 明治年間の中頃に観賞用に導入され、各地で野生化した。
- 他の植物を排除する化学物質(アレロパシー)を出す性質があり、時に他の植物を抑えて大繁茂する。しかし、増えすぎると自家中毒を起こし、自らが枯れてしまうと言われている。



オオアワダチソウ(右も)



生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期				■								
結実期				■								

- 魚類
- 底生動物
- 両生類
- 爬虫類
- トンボ
- チョウ
- 樹木
- (在来種) 草花
- (外来種) 草花
- 哺乳類
- (鳥水辺) 鳥類
- (草原・樹林) 鳥類



ワシ・タカ

草外 - 13

参考文献
「日本帰化植物写真図鑑」清水矩宏・森田弘彦・廣田伸七 全国農村教育協会 2001
「北海道帰化植物便覧 2000年版」五十嵐博 北海道野生植物研究所 2000
「北海道植物図譜」滝田謙讓 自費出版 2001
「日本の野生植物 草本III」佐竹義輔・大井次三郎 平凡社 1981
「名前といわれ 野の草花図鑑4」杉村昇 偕成社 1990